第1章　論理思考の基礎-その2

帰納法推論

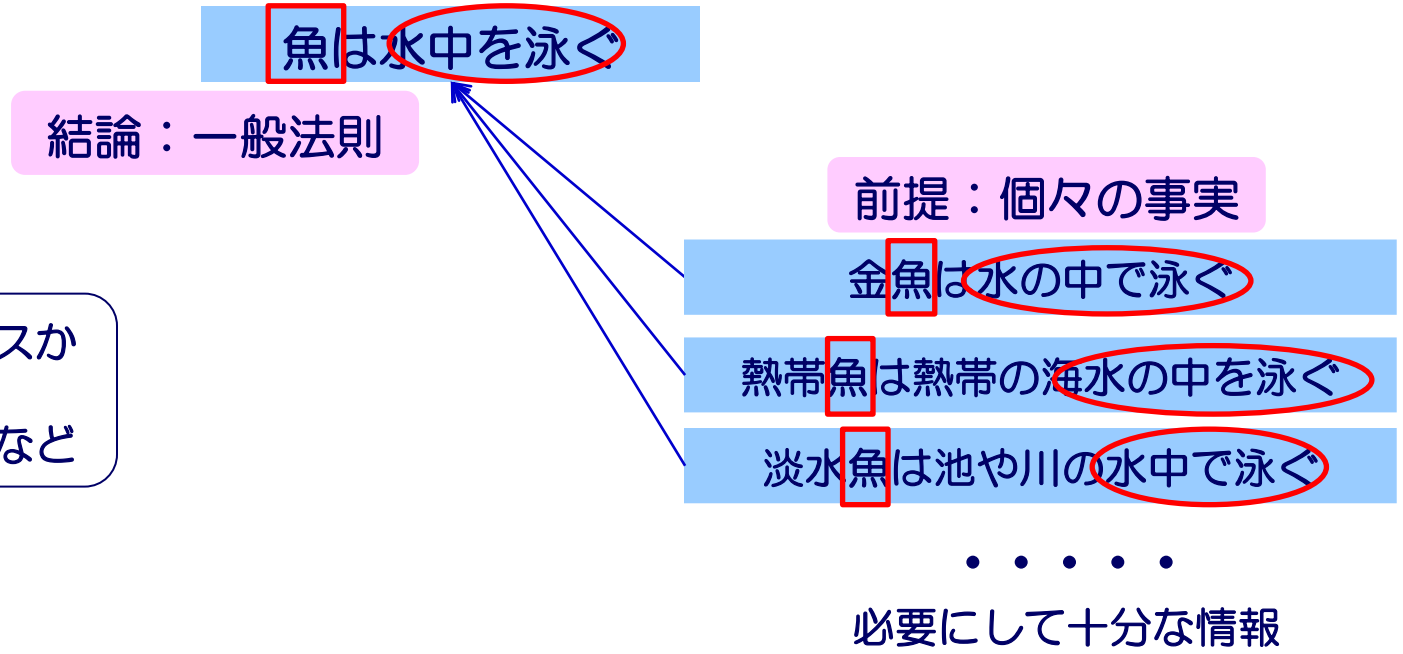
- 帰納論理（Induction）とは
- 例外の扱い
- 隠れた前提の扱い
- And結合という論理
- その他の推論：類比推論、アブダクション

帰納法推論について、より深く学習するには、論理思考講座、「第1章　ロジカルシンキングの基本を学ぼう 1.2.2　帰納法推論とは（https://www.ltkensyu.com/logicalthinking/1-1/1-3#link122）」をご参照ください。

帰納論理（Induction）とは

帰納法推論とは、（複数の）個別または特殊事象に基づいて、共通する一般的・普遍的メッセージや法則（あるいは別の個別または特殊事象）を導出する推論方法 である

帰納法の最も基本的な形式の例



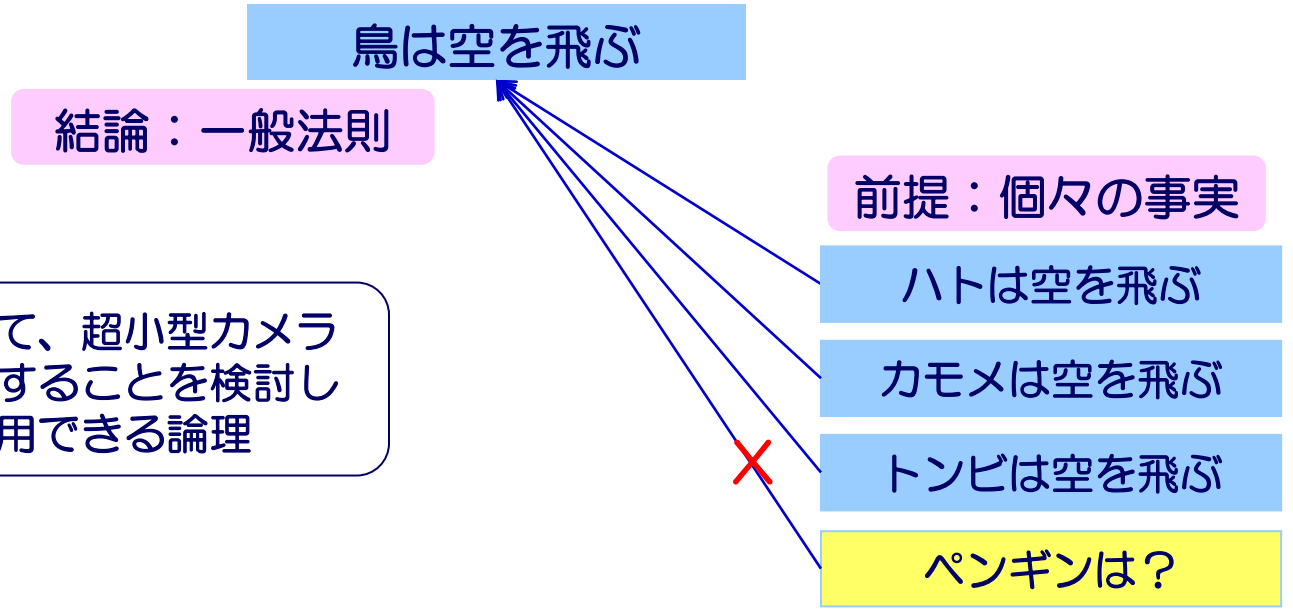
- 事象に接してゼロベースから思考する過程など
- 科学の法則の発見過程など

- 上位メッセージは複数の下位メッセージによって支えられている

帰納法推論：例外の扱い

帰納法推論の結論を否定するような「例外の存在」を問題とする必要がない状況においては，例外の存在を認識した上で、帰納法推論により導いた結論をそのまま使用しても構わない

例外の存在により、一般法則として成り立たない帰納論理の例

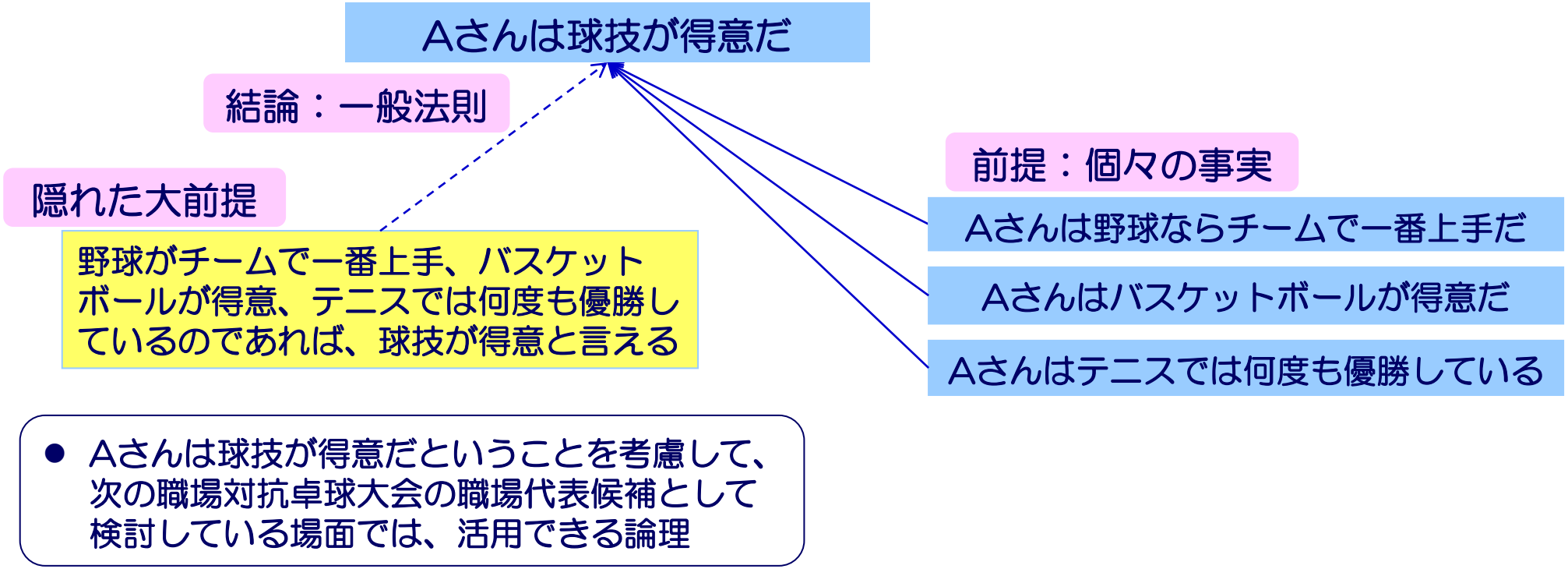


- 鳥が空を飛ぶ性質を利用して、超小型カメラで空から地上の様子を撮影することを検討している状況においては、活用できる論理

帰納法推論：隠れた前提の扱い

帰納法推論の結論の導出に欠かせない「隠れた前提の存在」を問題とする必要がない状況においては，
隠れた前提の存在を認識した上で、帰納法推論により導いた結論をそのまま使用しても構わない

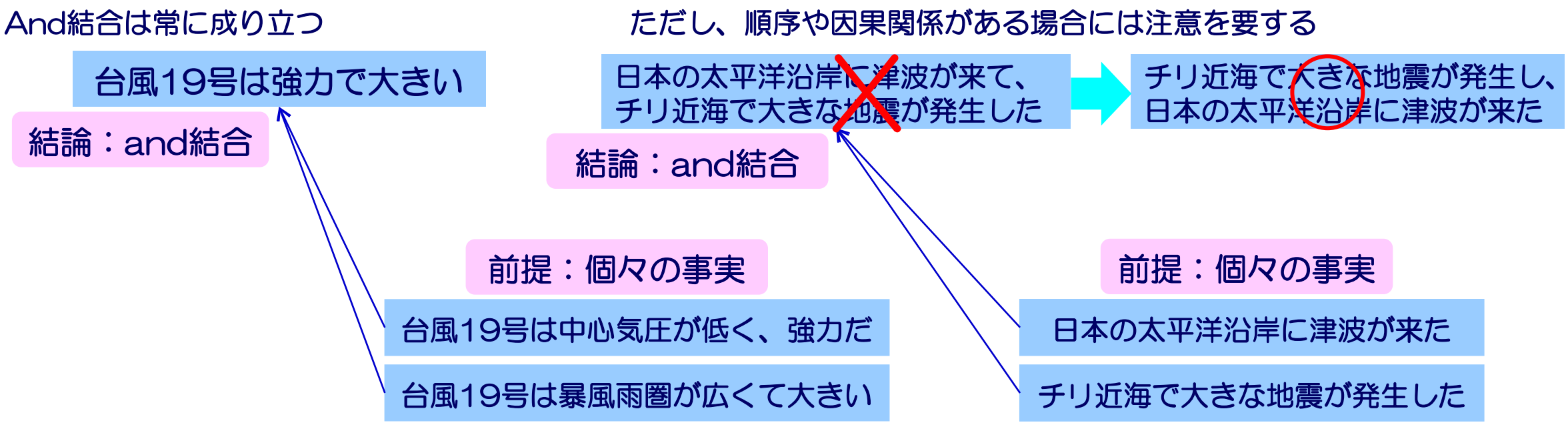
隠れた前提の存在がなければ、一般法則として成り立たない帰納論理の例



- Aさんは球技が得意だということを考慮して、次の職場対抗卓球大会の職場代表候補として検討している場面では、活用できる論理

And結合という論理

複数の、真である前提命題を単にand結合した結論命題は常に成り立つ。ただし、前提命題間に順序や因果等の特別な関係が存在する場合には、それらの関係を維持したand結合による結論命題に限られる。

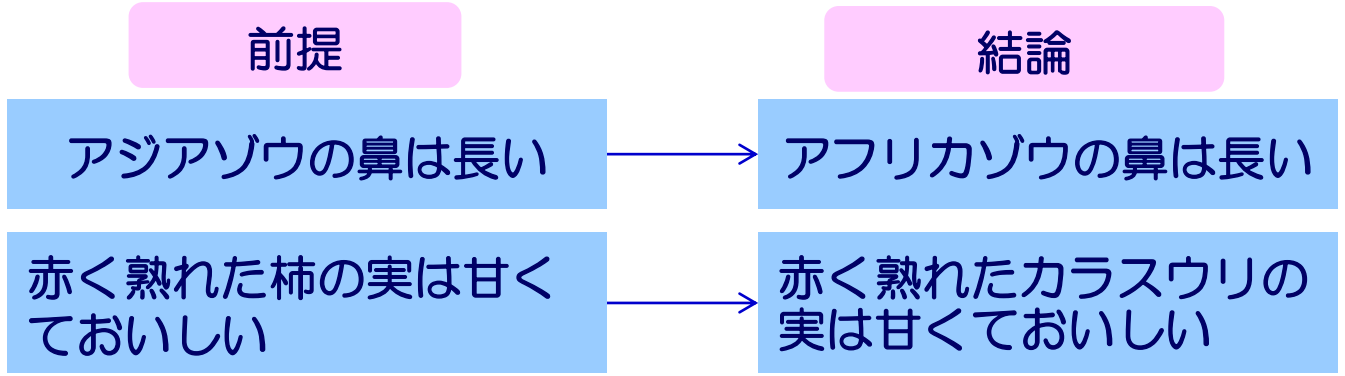


- 前提命題間に矛盾が生じない限り、 And結合の際に使用可能な接続詞には制限がない
- 例えば、「部屋は汚い」、「彼女はきれい」→「部屋は汚いにもかかわらず彼女はきれいだ」、「彼女はきれいだけれど部屋は汚い」、「彼女はきれいなのに部屋が汚い」などが成り立つ

その他の推論：類比推論、アブダクション

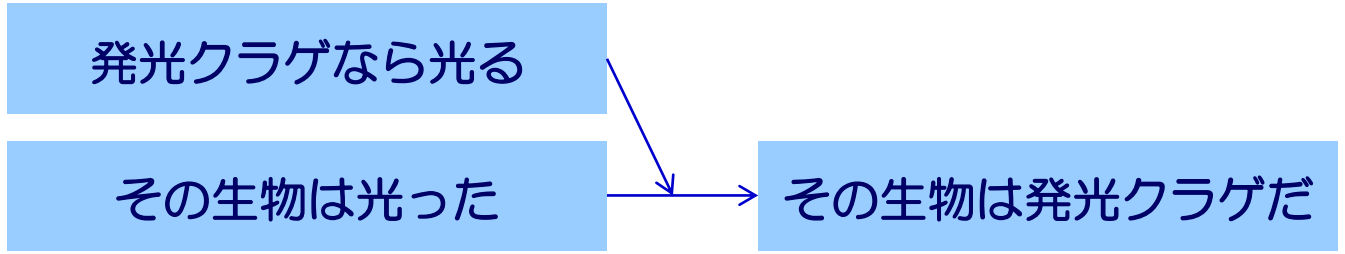
広義の帰納法推論には類比推論やアブダクションがあり、これらは成立する場合もあるが、多くは危うい推論となり、時に発見的な結論を導くことがある

類比推論（Analogy）



- 類比推論は結論が必ずしも真とはならない、最も単純な帰納法推論とも言えるが、時に発見的結論を導くことがある

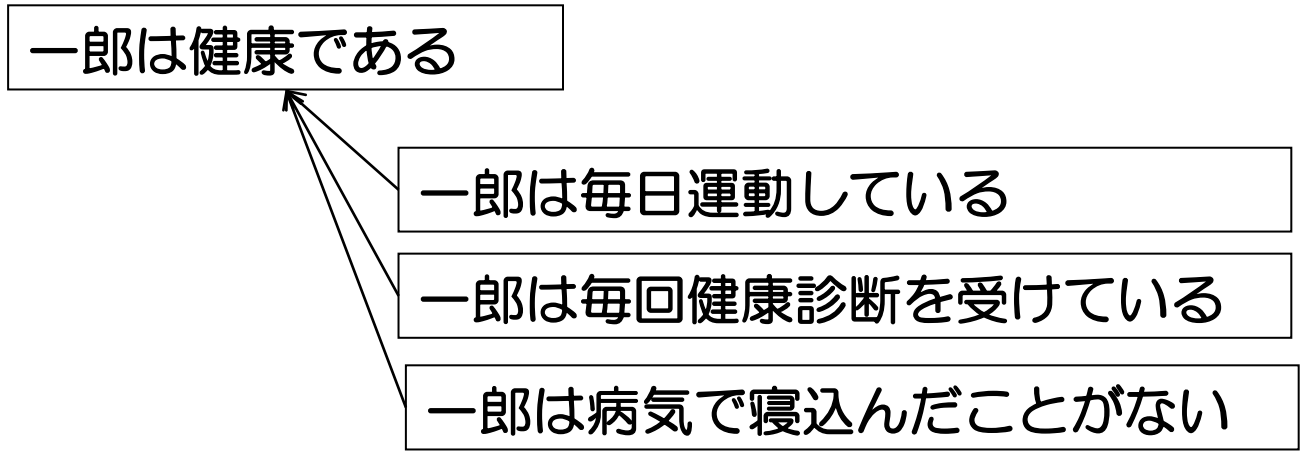
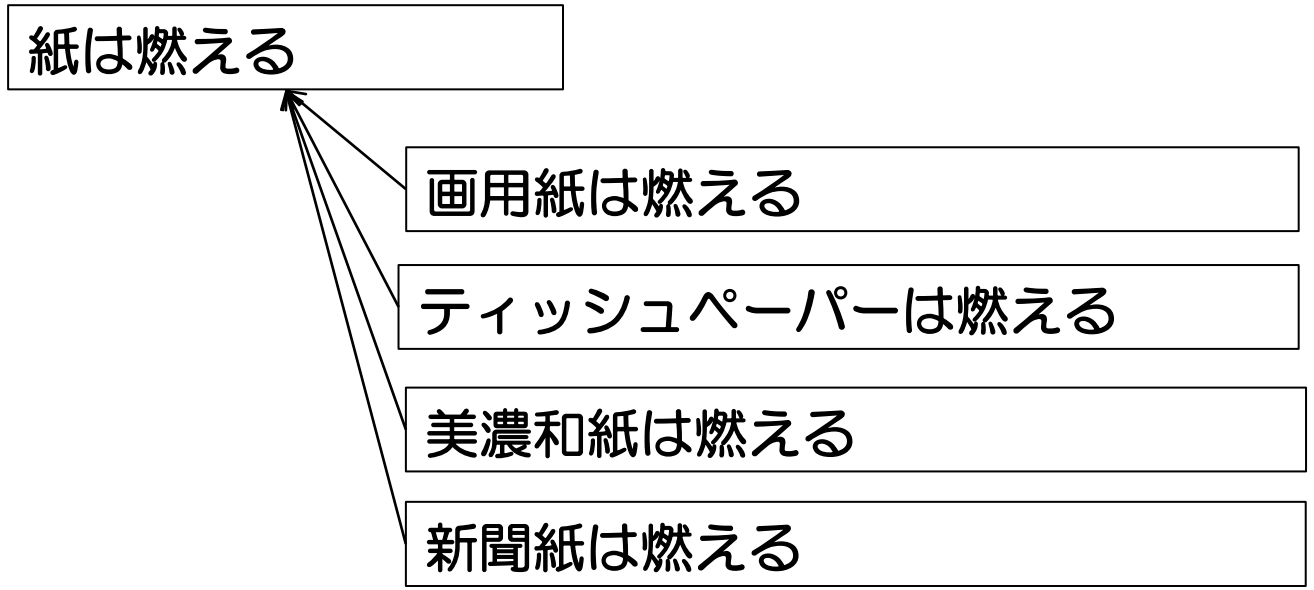
アブダクション（Abduction）



- アブダクションは「後件肯定の誤り」の例であるが、大前提命題において、逆が真となる場合には成立し、時に発見的・創造的結論を導く可能性を秘める

小演習：　次の帰納法推論が妥当と言えるにはどのような条件が必要か。

1



2